



みどりの風

平成24年6月1日発行
校報 第487号
〔みどりの風 第30号〕
練馬区立関町北小学校

たいこ山

校長 大野 泰弘

先日の運動会には、早朝より多くの保護者、ご家族、そしてご来賓の皆様にご来校いただき、子どもたちの演技、競技、係活動等に温かいご声援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。初夏の陽射しのもとで、一人一人の子どもたちがそれまでの練習の成果を発揮し、光り輝いていました。「校庭に 声を響かせ 熱くなれ」というスローガンのように、子どもも大人も心が一つになり、熱くなった一日でした。

さて、その運動会で熱くなった心を少しクールダウンし、引続き落ち着いた学校生活を過ごしていくために、今年度より、6月を読書月間と位置付けました。

また、本校の学校図書館を「宝島図書館」と名付け、今後も子どもたちの読書活動の拠点として整備していこうと考えています。これは、スチーブンスンの「宝島」という本にちなみ、ちょうど主人公のジム少年が一枚の地図をもとに宝島を探検したように、子どもたちが、本という心を育てる宝物がみつまっている学校図書館を訪ね、すてきな本、人生の一冊との出会いがあることを願ってのことです。

その「宝島図書館」に『たいこ山』という本があります。これは、本校の第六代校長 竹野 栄 先生〔53年4月～58年3月勤務〕が開校50周年に際し、子どもたちのために玉稿をご提供くださってできた本です。昨年の夏以降、その玉稿を図書ボランティアの有志の皆様が本格的に編集し、今年2月に一冊の本になりました。その『たいこ山』の書き出しは次のようになっています。



たいこ山
竹野 栄

一 くるたけ

山つてふしぎだ。
せまいところに、おしい、へしい
をして、いくつも重なり合っているもの
あるし、同じような形をした、同じよう
な高さをしたのが、どこまでもならん
でいるようなところもある。

その、どこまでもならんように
みえる山々の中ほどに、一つだけ、ぐん
とつき出ているのがあった。むねから上
が、三角の形をして出ているので、遠く
からでも目についた。

ひとかたまりの雲がとんでくると、こ
こから先へはやらないと、とおせんぼを
されるように見えた。が、少しすると、
雲はいくつにも引きさかれ、きれぎれに
なつてとんでいく。(以下略)

お話では、この後、この「くるたけ」が噴火の予兆の地鳴りを起こします。近くの「まる山」に住む動物たちは身の危険を感じます。動物たちの運命は、「くるたけ」はどうなるのか。そして、タイトルの「たいこ山」のいわれとは何なのか。お話を読んでいくうちに、竹野先生の山々や動物に対する温かい思いにもふれることができます。

そして、この「たいこ山」には、本文中に挿し絵がありません。子どもたちが思い思いの絵を描き、竹野先生と一緒に絵本を完成してほしい、という編集に携わったボランティアの皆様のお話があるからです。

子どもたちは、本を読みながら、挿し絵だけでなく、その心のキャンバスにどんなすてきな絵を描き広げていってくれるのでしょうか。運動会に向けて強くたくましくなった心に、さらに様々な読書活動を通して、相手の心を慮る想像力や豊かな感性などが育まれていくことを願っています。